



平和への願いをこめて
今こそご覧いただきたい作品をお届けします

■写真・資料のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 演劇研究所 演劇研修係 井上・大島・柴田

Tel: 03-5352-5770 / Fax: 03-5352-5776 / Email: dramastudio@nntt.jac.go.jp

■新国立劇場 演劇研究所ウェブサイト

<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/>



@nnt.dramastudio.tokyo



@nnt_dramastudio



新国立劇場

NNY
ドラマ・スタジオ

【作品概要】 朗読劇『ひめゆり』 ～語り継がれるべきあの時代の記憶～

演劇研修所では、毎年夏に過去の歴史に向き合う機会として広島と沖縄をテーマにした朗読劇を上演しております。

今年 2023 年 8 月にお届けする朗読劇『ひめゆり』は、実際にひめゆり学徒隊に従軍した方々の手記を、道場禎一氏と演劇研修所副所長を務める西川信廣氏が構成し、瀬戸口郁氏が朗読劇の形に脚本化した、太平洋戦争末期沖縄戦ドキュメンタリー・ドラマです。多数の犠牲者を出した沖縄戦の悲劇を決して忘れてはならない、二度とこの惨禍を繰り返してはならない、平和の尊さを叫ばなければという力強いメッセージが込められた本作を、2016 年の初演以来、演劇研修所では大切に上演し続けています。

「ひめゆり学園」という呼称で親しまれた第一高等女学校と沖縄県女子師範学校は、沖縄本島ほか宮古諸島や八重島諸島など、周辺地域一帯の女学生にとって憧れの学校でした。教職を志し、厳しい入学試験を突破した十代の女子生徒たちが、のどかで平和な学園生活から一変、戦争の悲劇に巻き込まれていきます。戦況が深まるにつれて女学生たちは、学業に勤しむことができず、排水溝整備といった勤労働員、戦傷者の看護のため陸軍病院へと動員されました。砲弾が飛び交う中での水くみや食料調達、重病患者の運搬の描写は実に生々しく、いかに戦争が恐ろしく不幸をもたらすものかと迫体験させられます。

作品中で繰り返される「命（ヌチ）ドゥ宝（タカラ）」とは、沖縄の言葉で「命こそもっとも大切だ」という意味です。多くの犠牲者を出した沖縄戦の悲劇を決して忘れてはならない、二度とこの惨禍を繰り返してはならない、平和の尊さを叫ばなければという力強いメッセージを込めた朗読劇です。

人類共通の願いである恒久平和が脅かされ、民間人を含めて多くの方々が犠牲となっている今、この世界で起きていることに目を背けてはなりません。平和への願いをこめて、今こそご覧いただきたい本作を、新国立劇場演劇研修所第 17 期生と修了生出演者が上演いたします。



2022 年公演より（第 16 期生ほか出演）
撮影：宮川舞子

【ものがたり】

南国の太陽が輝く相思樹（ソウシジュ）並木の道。
那覇と首里の間、安里駅近くに

沖縄師範学校女子部
沖縄県立第一高等女学校

一通称「ひめゆり学園」と呼ばれる女学校があった。
女生徒たちは誇り高く、勉学に運動に活気に満ちた学園生活を送っていた。

しかし一昭和 20 年 3 月。太平洋戦争の大波は沖縄に押し寄せ、女生徒たちに従軍命令が下される。
「ひめゆり学徒隊」として戦場に送り出された彼女たちは日本の勝利を信じ、野戦病院で献身的な看護活動に励むが、やがて沖縄は「鉄の暴風」吹き荒れる苛烈な戦場と化していき……

【スタッフ】



構成・演出：西川信廣（にしかわ・のぶひろ）

1949 年東京都生まれ。文学座附属演劇研究所 16 期、81 年座員となる。86 年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスに滞在。ブリストル・オールドビックやナショナル・シアターでロジャー・リース、ピーター・ホールなどの演出助手を務める。84 年文学座アトリエの会『クリスタル・クリアー』で文学座初演出。以来、文学座を中心に商業演劇から小劇場までストレートプレイを中心に幅広く活動中。新国立劇場での演出に『野望と夏草』（読売演劇大賞優秀演出家賞受賞）『母たちの国へ』。92 年文学座アトリエの会『マイ チルドレン！ マイ アフリカ！』にて紀伊國屋演劇賞個人賞、芸術選奨・文部大臣新人賞。94 年文学座公演『背信の日々』で読売演劇大賞優秀演出家賞ほか、受賞多数。日本劇団協議会会長。日本演出者協会理事。新国立劇場演劇研修所では設立時より現在まで副所長を務める。演出家。



脚本：瀬戸口 郁（せとぐち・かおる）

慶應義塾大学文学部卒業。文学座所属。俳優として、『寒花』『女の一生』『再びこの地を踏まず』など文学座の舞台を中心に活躍。『夜の来訪者』（俳優座劇場プロデュース）など外部出演も多数。脚本に『ザ・クライシス』（文学座アトリエ）、『食いしん坊万歳！』（文学座）、『真砂女』（劇団朋友）、ミュージカル『君といた夏』（可児市文化創造センター）、『南の島に雪が降る』（劇団前進座）など。脚本作品『てくれつつのぼ』（劇団文化座）が平成 20 年度文化庁芸術祭大賞を受賞。同作品は韓国、トルコ共和国でも上演される。また新作日本舞踊の脚本『白蓮糲多羅』（徳彌の会・国立劇場）を手掛けるなど、ジャンルを問わず旺盛な執筆活動を展開している。俳優・劇作家。



構成：道場禎一（どうじょう・ていいち）

フリーの演出家・演出助手として活動。その活動は小劇場から商業演劇まで多岐にわたる。主な演出作品に『赤ずきんちゃんの森の狼たちのクリスマス』『歌うシンデレラ』『東おとこに京おんな』などがある。1992 年より西川演出作品に参加。『野望と夏草』『母たちの国へ』『音楽劇 人形の家』『音楽劇 ハンナのかばん』『仮縫い』ほか多数の作品に参加。2009 年より金沢市民芸術劇場（K-CAT）に参加、地域劇場での演劇活動にも積極的に参加している。演出家・演出助手・舞台監督。

【キャスト】

新国立劇場演劇研修所 第17期生

| | | | |
|--|--|---|---|
|  |  |  |  |
| 飯田 桃子 いいた ももこ | 小林 未来 こばやし みく | 佐々木 優樹 ささき ゆうき | 田崎 奏太 たさき そうた |
|  |  |  | |
| 立川 義幸 たてかわ よしゆき | 根岸 美利 ねぎし みり | 樋口 圭佑 ひぐち けいすけ | |

新国立劇場演劇研修所 修了生

| | | | |
|---|---|--|---|
|  |  |  |  |
| 河波 哲平 かわなみ てっぺい 第13期 (2020年修了) | 松村 こりさ まつむら こりさ 第13期 (2020年修了) | 渡邊 清楓 わたなべ さやか 第14期 (2021年修了) | 伊海 実紗 いかい みさ 第16期 (2023年修了) |
|  |  | | |
| 宮津 侑生 みやづ ゆうき 第16期 (2023年修了) | 米山 千陽 よねやま ちひろ 第16期 (2023年修了) | | |

【公演概要】

新国立劇場演劇研修所第17期生公演 朗読劇『ひめゆり』

脚本：瀬戸口 郁

「私のひめゆり戦記」(宮良ルリ著) 「ひめゆりの塔 学徒隊長の手記」(西平英夫著) 「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」(仲宗根政善著)より

構成：道場禎一

構成・演出：西川信廣(新国立劇場 演劇研修所副所長)

美術：小池れい

ヘアメイク：前田節子

照明：塚本 悟

歌唱指導：伊藤和美

音楽：上田 亨

方言指導：下庫理ゆき、AZU

音響：黒野 尚

演出助手：岩澤侑生子(第7期修了)

映像：鈴木大介

舞台監督：米倉幸雄

衣裳：中村洋一

出演：新国立劇場演劇研修所 第17期生

飯田桃子 小林未来 佐々木優樹 田崎奏太 立川義幸 根岸美利 樋口圭佑

河波哲平(第13期修了)

松村こりさ(第13期修了)

渡邊清楓(第14期修了)

伊海実紗(第16期修了)

宮津侑生(第16期修了)

米山千陽(第16期修了)

演劇研修所長：宮田慶子

主催・制作：新国立劇場

会場：新国立劇場 小劇場

日時：2023年8月 10日(木) 18:30/11日(金・祝) 14:00

12日(土) 14:00/13日(日) 14:00

チケット料金(税込)：A席 2,750円/B席 2,200円/U25席 1,650円

Z席 1,650円

○クラブ・ジ・アトレ会員ほか、各種割引はありません。

◆U25席のご案内

ご観劇当日に25歳以下の方が対象です。Webボックスオフィスのみのお取り扱いです。

入場時、チケットと共にご年齢を確認できる証明書(コピー不可)をご提示ください。電話予約不可。

チケットのご購入：新国立劇場ボックスオフィス

03 - 5352 - 9999

Webボックスオフィス

<https://nntt.pia.jp/>

チケットぴあ【Pコード：519-792】

<https://t.pia.jp/>

前売り開始日：一般発売日 2023年7月9日(日) 10:00～

公演ウェブサイト：https://www.nntt.jac.go.jp/play/himeyuri_2023/

※チケット販売等、最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

2023年8月朗読劇『ひめゆり』の稽古本格開始に際し、「ひめゆり学徒隊」の足跡をたどり、沖縄戦の実態を学習し、また琉球文化の息吹を現地で吸収するため、4泊5日の現地研修を行いました。

この国内研修は、「全日本空輸株式会社による新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」により実現しました。

研修生たちにとってこの5日間は、作品の時代背景や歴史を知ること・学ぶことの重要性を再確認する大変貴重な機会となりました。さらに、沖縄の文化・風俗を五感で体験することによって、より一層の刺激を受けて参りました。



【新国立劇場 演劇研修所について】

新国立劇場演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強い身体を備えた次世代の演劇を担う舞台俳優の育成を目指して、2005年に設立されました。研修期間は3年間で、原則として週5日間、午前10時～午後6時のレッスンを、年間を通して行っています。

1・2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣による基礎的な訓練およびシーンスタディを行い、3年次には修了に向けて数本の舞台実習公演を行います。

修了生は、新国立劇場公演のみならず、さまざまなプロデュース公演に出演、映像作品への出演、声の仕事など、活躍の場を広げています。

本公演に出演する第17期生は、2021年4月に入所。ウィズコロナの時代にあって、日々の授業もマスクを常時着用して行うなど、その研修内容は決して平たんなものではありませんでした。厳しい2年間の研鑽を経て、3年次である今年度、朗読劇『ひめゆり』公演に臨みます。

本公演を皮切りに、舞台での実践的な経験を積み、国内外で活躍する俳優への道の一步を踏み出します。今後の公演、そして活躍にもどうぞご期待ください。

新国立劇場演劇研修所ウェブサイト：<https://www.nntt.jac.go.jp/dramastudio/>

今後の研修公演のご案内

■第17期生公演

公演日程：2023年11月7日（火）～12日（日）

■第17期生 修了公演

公演日程：2024年2月6日（火）～11日（日・祝）

第20期生選考試験のご案内

研修期間 2024年4月～2027年3月

出願期間：2023年11月～12月（予定）

選考試験：2024年1月中旬（予定）

最新の情報は、ウェブサイトにてお知らせいたします。

演劇研修所修了生の出演情報：<https://www.nntt.jac.go.jp/play/training/graduate/info/>